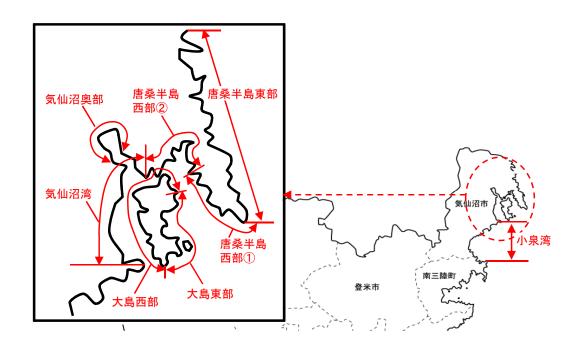
気仙沼市における 海岸堤防高について



〇地域海岸分割と基本計画堤防高について



基本計画堤防高一覧

単位:m(T. P.)

番号	地域海岸名		基本計画	画堤防高	
留写	地以海岸石	代表高	起点	終点	高さ
4	唐桑半島東部	11.3	岩手県境	真崎	8.0
ı	店 祭十 与 宋	11.3	真崎	御崎	11.3
2	唐桑半島西部①	11.2	御崎	大明神崎	11.2
3	唐桑半島西部②	9.9	大明神崎	鶴ヶ浦	9.9
4	気仙沼湾	7.2	鶴ヶ浦	岩井崎	7.2
			潮見町	港町	5.0
5	気仙沼湾奥部	5.0	港町	魚町	5.2
			魚町	大浦	5.0
6	大島東部	11.8	大初平	龍舞崎	11.8
			大初平	浦の浜	7.0
7	大島西部	7.0	浦の浜	田尻	7.8
			田尻	龍舞崎	7.0
			岩井崎	大沢	9.8
8	小泉湾	9.8	大沢	蔵内	14.7
			蔵内	石浜	9.8

①地域海岸の分割と海岸堤防の計画高さの考え方(唐桑半島東部)

評価箇所	既存施設高	明治三陸沖地震 (計算値)※	昭和三陸沖地震 (痕跡値)	チリ地震 (痕跡値)	宮城県沖地震 (計算値)	東北地方 太平洋沖地震 (痕跡値)	堤防計画高
小滝浜海岸		(14. 5)			5. 4		11. 3
馬場漁港		(18. 0)	8. 1	2. 5	6. 2	13. 8	11. 3
後馬場海岸		(14. 2)	8. 3		6.0	12. 7	11. 3
石浜漁港		(12. 8)	7. 0	2. 0	6.8	15. 2	11. 3
稲村浜海岸	4. 5	(15. 4)	9. 5		6. 0	12. 8	11. 3
只越漁港海岸	6. 1	(13. 0)	10.0	4. 6	8. 2	14. 6	11. 3
荒谷前海岸	5. 5	10. 3	5. 5		9. 0	13. 6	11. 3
大沢漁港		7. 0	6. 7	4. 3	5. 7	13. 6	8. 0

痕跡の出典

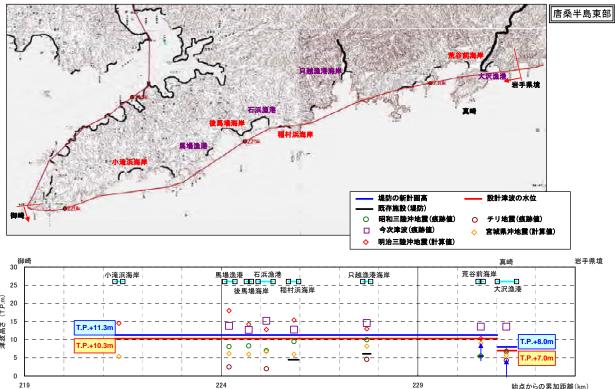
- ・津波痕跡データベース(東北大学)
- 宮城県既往検討資料

※括弧囲みの明治三陸沖地震(計算値)は、東北地方 太平洋沖地震津波の痕跡高と近似するため、L2津波 として分類した。

【地域海岸分割の考え方】

地域海岸の北端を「宮城・岩手県境」とする。唐桑半島南側については、「御崎」を境に北側が外洋向きとなっており、同地点を地域海岸の南端とする。 【計画堤防高の考え方】

- ① 荒谷前海岸から只越漁港海岸については、明治三陸沖地震津波の計算値をL1津波とし、計算水位の最高値である荒谷前海岸の10.3mを設計津波の水位として設定する。
- ②只越漁港海岸以南については、明治三陸沖地震津波の計算値が東北地方太平洋沖地震津波と近似するため、明治三陸沖地震津波の計算値をL2津波として分類した。このため、荒谷前海岸での計算値10.3m及び次点の昭和三陸津波の痕跡値を比較し、最高値となる荒谷前海岸の10.3mを御崎までの設計津波の水位として採用する。
- ③大沢漁港については、地域海岸内の他の海岸より津波水位が低くなるため、明治三陸沖地震津波の計算水位の最高値7.0mを設計津波の水位として設定する。



②地域海岸の分割と海岸堤防の計画高さの考え方(唐桑半島西部①)

評価箇所	既存施設高	明治三陸沖地震(計算値)	昭和三陸沖地震 (痕跡値)	チリ地震 (痕跡値)	宮城県沖地震 (計算値)	東北地方 太平洋沖地震 (痕跡値)※	堤防計画高
神止浜漁港海岸	4. 5	8. 1			5. 2	11. 5	11. 2
栃浜海岸	4. 5	8. 8		1.9	5. 1		11. 2
高石浜海岸	4. 5	10. 2			4. 9		11. 2

痕跡の出典

- ・津波痕跡データベース(東北大学)
- 宮城県既往検討資料

※地域海岸内における東北地方太平洋沖地震の最大痕跡値は「20.3m」(御崎付近)

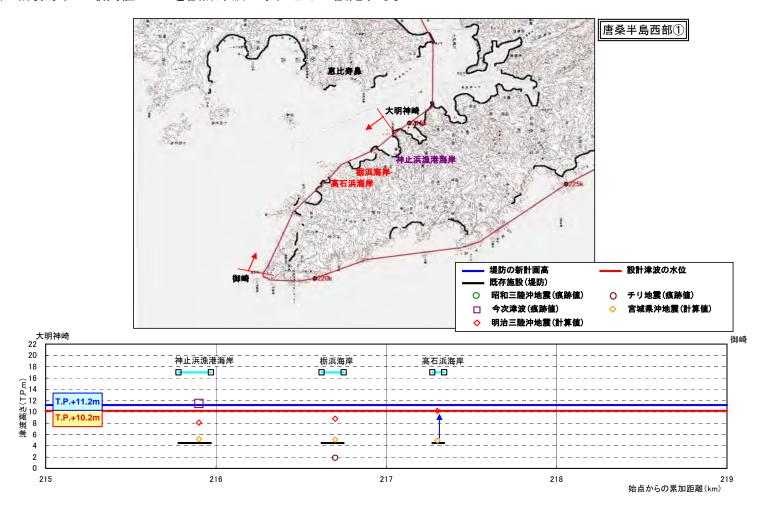
【地域海岸分割の考え方】

唐桑半島西部については、半島部の大明神崎と大島の大初平付近の恵比寿鼻との間が狭隘部となっており、この付近を境に外洋側と奥側で津波水位分布が異なるため、大明神崎を境に西部①と西部②に区分する。

半島先端の「御崎」を南端とし、「大明神崎」を北端とする。

【計画堤防高の考え方】

明治三陸沖地震津波の計算水位の最高値10.2mを設計津波の水位として設定する。



③ 地域海岸の分割と海岸堤防の計画高さの考え方(唐桑半島西部②)

評価箇所	既存施設高	明治三陸沖地震(計算値)	昭和三陸沖地震 (痕跡値)	チリ地震 (痕跡値)	宮城県沖地震 (計算値)	東北地方 太平洋沖地震 (痕跡値)	堤防計画高
鶴ヶ浦漁港海岸	2. 5	6. 6	2. 5	2. 1	6. 2		9. 9
西舞根貝浜海岸	3. 2	8. 2	2. 2	1. 9	7. 8	12. 8	9. 9
舞根漁港		8. 9	3. 4	2. 1	8. 3	15. 1	9. 9
宿漁港海岸		8. 4		2. 0	8. 9	12. 2	9. 9
藤浜海岸	3. 2	8. 0	3. 0	2. 1	8. 5	17. 8	9. 9
鮪立漁港		7. 5	3. 0	1. 6	5. 0		9. 9
田の浜海岸		7. 3			4. 8		9. 9
小鯖漁港		8. 9	4. 2	1. 7	5. 0	16. 3	9. 9

痕跡の出典

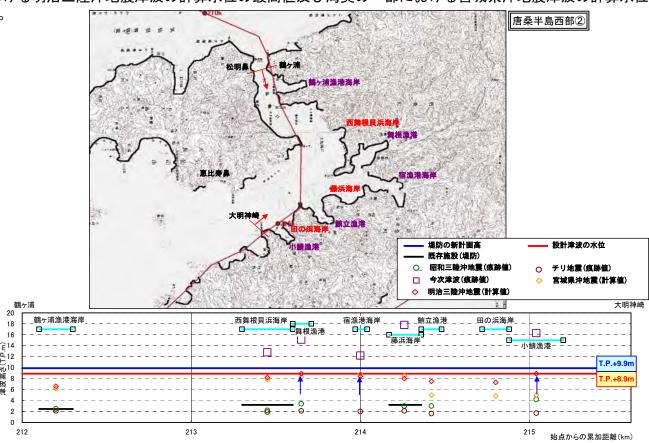
- ・津波痕跡データベース(東北大学)
- •宮城県既往検討資料

【地域海岸分割の考え方】

唐桑半島西部については、半島部の大明神崎と大島の大初平付近の恵比寿鼻との間が狭隘部となっており、この付近を境に外洋側と奥側で津波水位分布が異なるため、大明神崎を境に西部①と西部②に区分する。

「大明神崎」を東端とし、西側については、「鶴ヶ浦」付近を境に気仙沼湾との津波の来襲傾向が異なるため、鶴ヶ浦付近の最狭窄部を西端とする。 【計画堤防高の考え方】

湾の南部と湾奥における明治三陸沖地震津波の計算水位の最高値及び湾奥の一部における宮城県沖地震津波の計算水位の最高値である8.9mを設計津波の水位として設定する。



(4) 地域海岸の分割と海岸堤防の計画高さの考え方(気仙沼湾)

評価箇所	既存施設高	明治三陸沖地震 (計算値)	昭和三陸沖地震 (痕跡値)	チリ地震 (痕跡値)	宮城県沖地震 (計算値)	東北地方 太平洋沖地震 (痕跡値)	堤防計画高
波路上漁港海岸 (崎野地区)	2. 9	6. 2			4. 5	10. 5	7. 2
波路上漁港海岸(波路上地区)	4. 5	5. 6	2. 9	2. 4	6. 0	17. 3	7. 2
最知海岸	4. 5	4. 5	2. 0		4. 6	6. 6	7. 2
川原漁港海岸 (川原地区)	4. 5	5. 3	4. 0	3. 2	6. 1	9. 4	7. 2
台の沢海岸	3. 1	4. 8	2. 2	3. 7	5. 3		7. 2
川原漁港海岸(千岩田地区)	3. 1	4. 9			5. 3		7. 2
千岩田海岸	3. 1	5. 2			5. 8	8. 1	7. 2
松岩漁港海岸	3. 1	5. 2	3. 9	2. 4	5. 1	15. 4	7. 2
片浜海岸	3. 4	5. 0	0.8	2. 8	5. 3	11. 4	7. 2
気仙沼漁港海岸 (前浜)	3. 1	5. 0		2. 4	5. 7	7. 1	7. 2
気仙沼港海岸 (朝日地区)	2. 3	5. 0			5. 8	9. 4	7. 2
気仙沼漁港海岸(小々汐)	2. 8	5. 3	1. 6	2. 6	6. 2	11.0	7. 2
気仙沼漁港海岸(梶ヶ浦)	2. 8	4. 9	1.9	2. 5	5. 6	12. 3	7. 2

痕跡の出典

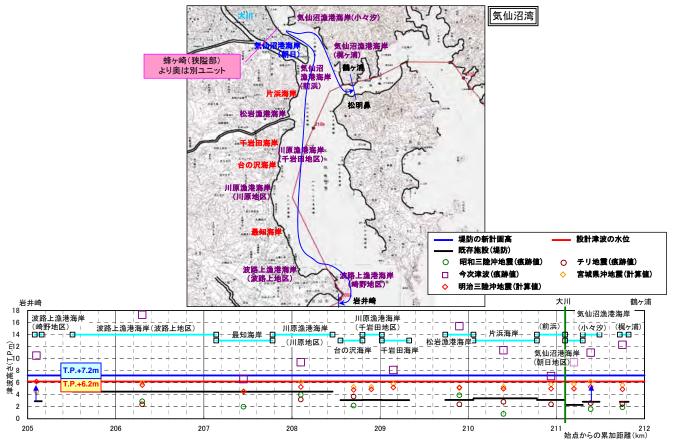
- ・津波痕跡データベース(東北大学)
- •宮城県既往検討資料

【地域海岸分割の考え方】

岬形状の地形であり、外洋と内湾との境界となる「岩井崎」より北部に位置する海岸(大島と気仙沼湾奥部を除く)を「気仙沼湾」とする。

【計画堤防高の考え方】

地域海岸の南部における明治三陸沖地震津波の計算水位の最高値及び湾の北側における宮城県沖地震津波の計算水位の最高値である6.2mを設計津波の水位として設定する。



(5)海域海岸の分割と海岸堤防の計画高さの考え方(気仙沼湾奥部)

評価箇所	既存施設高	明治三陸沖地震 (計算値)	昭和三陸沖地震 (痕跡値)	チリ地震 (痕跡値)	宮城県沖地震 (計算値) ※1	東北地方 太平洋沖地震 (痕跡値)	堤防計画高 ※2
潮見町(すり付け区間)		4. 5		2. 2	5. 0		5.0~7.2(5.0)
魚市場前		3. 4	1.5	2. 3	3. 9	10. 4	5. 0 (5. 0)
魚町		4. 2	1.5	2. 7	4. 0	7. 3	5. 2 (6. 2)
気仙沼漁港海岸 (鹿折)	2. 8	3. 8		2. 1	4. 0	11. 6	5. 0 (5. 0)

痕跡の出典

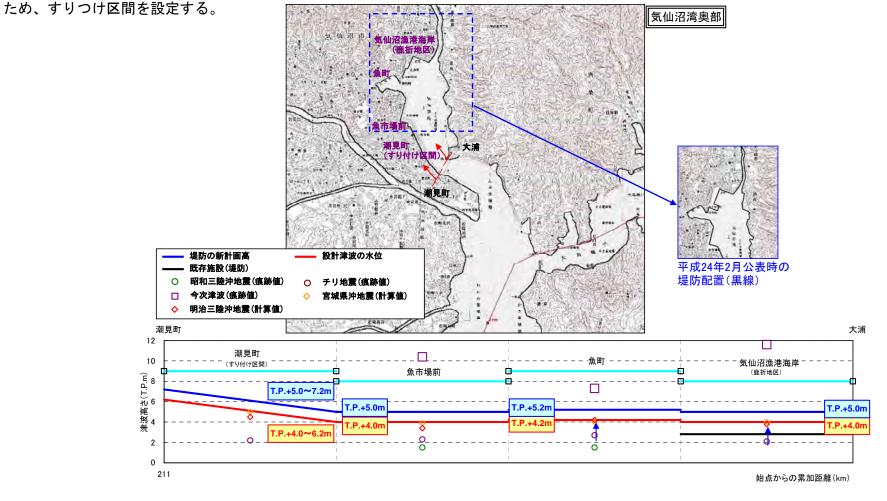
- ・津波痕跡データベース(東北大学)
- 宮城県既往検討資料
- ※1 気仙沼湾と湾奥のすり付け区間については、宮城県沖地震津波の計算水位の最大値を満足するよう設定する。
- ※2 湾奥部の堤防設置位置の変更により計画堤防高を見直し

【地域海岸分割の考え方】

・狭隘部となる蜂ヶ崎付近(大浦、潮見町)を境に湾内の津波水位が減少するため、この地点より奥を湾奥部の地域海岸として設定する。 計画場な京の者ませる。

【計画堤防高の考え方】

宮城県沖地震津波の計算水位の最高値4.0mを設計津波の水位として設定する。なお、湾奥である魚町付近は、湾の形状により津波水位が増大することから分割し、明治三陸沖地震津波の計算水位の最高値となる4.2mを設計津波の水位として設定する。外洋側と湾奥部については、設計津波の水位が異なる



⑥ 地域海岸の分割と海岸堤防の計画高さの考え方(大島東部)

評価箇所	既存施設高	明治三陸沖地震(計算値)	昭和三陸沖地震 (痕跡値)	チリ地震 (痕跡値)	宮城県沖地震 (計算値)	東北地方 太平洋沖地震 (痕跡値)	堤防計画高
田中浜海岸	3. 9	10.8	4. 3	2. 8	7.7	15. 6	11. 8

痕跡の出典

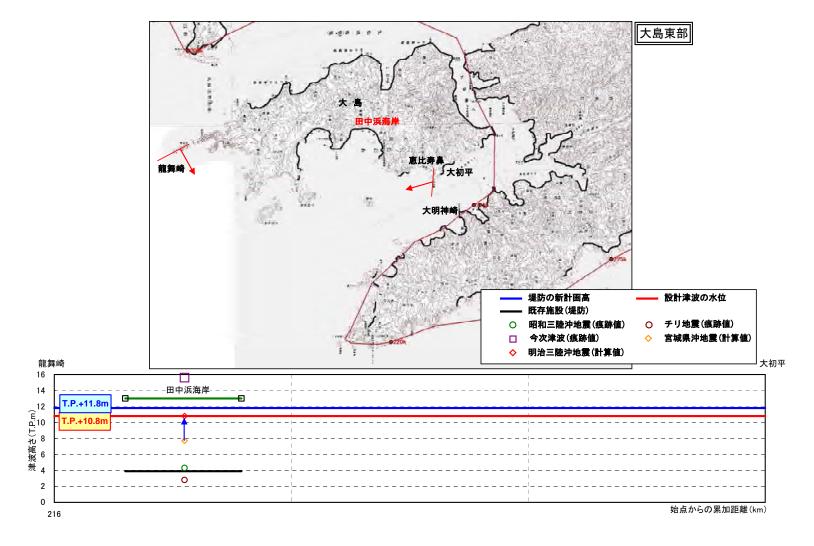
- ・津波痕跡データベース(東北大学)
- •宮城県既往検討資料

【地域海岸分割の考え方】

唐桑半島西部の大明神崎と大島の大初平付近の恵比寿鼻との間が狭隘部となっており、この付近を境に外洋側と奥側で津波水位分布が異なるため、 「大初平」を地域海岸の北端とし、「龍舞崎」を南端とし、大島で海岸線が東向きとなる地域海岸を設定する。

【計画堤防高の考え方】

明治三陸沖地震津波の計算水位の最高値10.8mを設計津波の水位として設定する。



(7)地域海岸の分割と海岸堤防の計画高さの考え方(大島西部)

評価箇所	既存施設高	明治三陸沖地震 (計算値)	昭和三陸沖地震 (痕跡値)	チリ地震 (痕跡値)	宮城県沖地震 (計算値)	東北地方 太平洋沖地震 (痕跡値)	堤防計画高
要害漁港海岸	4. 1	5. 0	4. 3	2. 5	4. 1	8. 4	7. 0
高井浜大向海岸	4. 5	4. 7		2. 9	4. 1	8. 4	7. 0
浦の浜漁港海岸	3. 1	5. 9	4. 3	3. 0	6. 8	9. 1	7. 8
亀山磯草海岸	3. 2	6. 0	2. 8	2. 2	5. 8	7. 9	7. 0

痕跡の出典

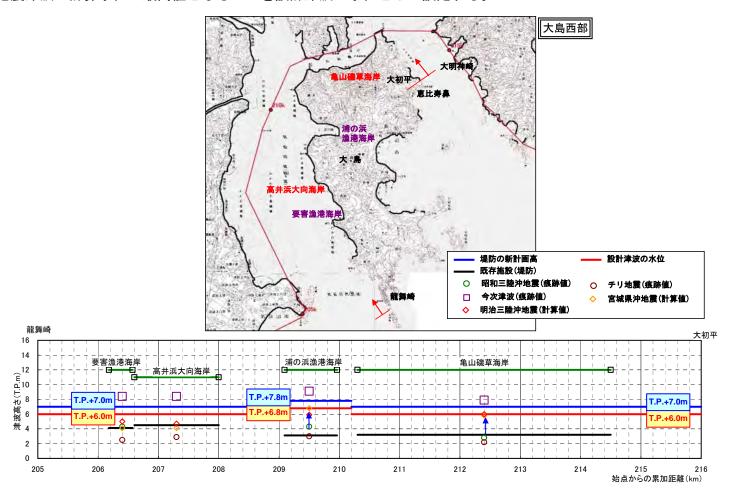
- ・津波痕跡データベース(東北大学)
- •宮城県既往検討資料

【地域海岸分割の考え方】

唐桑半島西部の大明神崎と大島の大初平付近の恵比寿鼻との間が狭隘部となっており、この付近を境に外洋側と奥側で津波水位分布が異なるため、 「大初平」を地域海岸の北端とし、「龍舞崎」を南端とし、大島で海岸線が西向きとなる地域海岸を設定する。

【計画堤防高の考え方】

明治三陸沖地震津波の計算水位の最高値6.0mを設計津波の水位として設定する。なお、浦の浜漁港海岸は湾の形状により津波水位が増大することから分割し、宮城県沖地震津波の計算水位の最高値となる6.8mを設計津波の水位として設定する。



⑧ 地域海岸の分割と海岸堤防の計画高さの考え方(小泉湾)

評価箇所	既存施設高	明治三陸沖地震(計算値)	昭和三陸沖地震 (痕跡値)	チリ地震 (痕跡値)	宮城県沖地震 (計算値)	東北地方 太平洋沖地震 (痕跡値)	堤防計画高
田浦漁港海岸	4. 6	7. 2	5. 5	3. 0	6. 4	16. 1	9. 8
港漁港海岸 (港地区)	4. 6	6.8	3. 5	2. 6	6. 2	19. 3	9. 8
蔵内漁港海岸 (蔵内地区)		8. 6	4. 4	3. 7	6. 1	24. 7	9. 8
今朝磯海岸		10. 0			7. 6		14. 7
二十一浜漁港		12. 7	6. 2	3. 1	7. 6	17. 0	14. 7
中島海岸	5. 5	13. 7	8. 0	3. 9	10. 3	22. 3	14. 7
日門漁港		8. 7	4. 0		7. 7	17. 6	9. 8
大谷海岸	4. 2	8.8	4. 0	3. 4	7. 4	18. 1	9. 8
大谷漁港	4. 1	6. 6	6. 5		8. 5	12. 7	9. 8
杉の下海岸	3. 9	8. 6	2. 9	3. 6	7. 5	13. 2	9. 8
岩井崎海岸	5. 0	8. 4		4. 0	6. 6	12. 2	9.8

痕跡の出典

- 津波痕跡データベース(東北大学)
- 宮城県既往検討資料

【地域海岸分割の考え方】

岬形状の地形となっている「岩井崎」と「石浜」に挟まれた湾状の地形を、一連の地域海岸として設定する。

【計画堤防高の考え方】

岩井崎より石浜まで、明治三陸沖地震津波の計算水位の最高値8.8mを設計津波の水位として設定する。なお、土台磯漁港海岸から中島海岸を挟み 今朝磯漁港までは、湾奥部となり津波水位が増大するため分割し、明治三陸沖地震津波の計算水位の最高値となる13.7mを設計津波の水位として設定する。

